

第100号

# 研究所報

三好教育研究所  
令和元（2019）年度

## あ い さ つ

～研究所報100号によせて～

三好教育研究所では、平成29年度から5年間「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成」を研究主題に、各学校のご協力をいただきながら、研究・研修活動を行っています。

その研究の集大成と言える本年度の研究発表会は、研究発表校の白地小学校、東祖谷中学校の先生方や計画準備等でお世話になった関係機関の方々のおかげで、成功裏に収めることができました。また、本年度は、「釜石の奇跡」として有名な群馬大学の片田先生を講師としてお迎えして、「子どもたちに生き抜く力を育む防災教育」と題して、私たち教員に大変有意義な講演をしてくださりました。この場を借りて、関係の先生方に深くお礼申し上げます。

さて、三好教育研究所は、歴史をひもとけば、昭和41年に、三好郡教育研究所として設立し、以来53年間三好郡市の教育発展のために、三好教育会や各学校と共に研究・研修活動に取り組んでまいりました。研究所報第1号を発行したのは、翌年の7月です。当時は、毎月の発行で、新聞形式の裏表印刷1枚でした。初代所長の吉村先生は、「波紋は意外なほど、遠くまで広がって行くことがある・・・教育会に小石が投げられたのである」と、研究所設立の意義を所報の巻頭で述べられています。さらに、担当指導主事であった故長谷英徳先生は、「思考力をつける学習を」と題して次のような文章を書かれています。「最近の児童生徒の特徴として、思考力の低下があげられている・・・ことに現代社会は、複雑多岐となり、知識の量が激増しており、転移力の乏しい知識を多く教えても大した意味がないのでは。できるだけ少なく教えて、できるだけ役立たせるといふ先哲のことばを吟味してみる必要がある」と、50年以上前の教育の情勢や課題が垣間見られ、現代の教育との共通点や相違点がよくわかります。

本年度も、委嘱研究員の先生方に、研究主題に沿った日頃の実践活動の研究成果をまとめていただき、報告していただきました。本当にお世話になりました。三好地区の学校・園の先生方も、この研究成果をご覧いただき、今後の教育実践の参考にしていただければ幸いです。

教育研究所は、若手教員の育成や中堅教員・管理職等への研修、小学校情報部会との連携によるICT教育の推進などを行ってまいりました。今、学校現場は、グローバル化、情報化、少子高齢化などの急激な社会の変化に伴い、これらの諸課題への対応がせまられています。特に、情報化社会の発達は、新たな未来社会として、SOCIETY 5.0が提唱され、教育現場も大きく変貌しなければならない時代が来ています。このような現状を踏まえ、文科省も、求められる教師像として「社会からの尊敬・信頼を受ける教員、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が必要である」と述べています。教員に求められる要求は、ますます高度化、複雑化する中で、昨今は「教職員の働き方改革」も同時に叫ばれています。今こそ、管理職のマネジメント能力や人材育成力が試され、教職員が自ら意識改革しないと、時代の要請に押しつぶされていくのかもしれない。そのような中で、三好研究所の果たす役割も、日々、変革して行く必要があります。今後とも時代の要請に応えながら、三好地区の児童・生徒の実態や地域の実情に即した研究・研修活動に努めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、これまで、当研究所の諸事業に対しまして、関係者の皆様にご指導ご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げますと共に、今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。

令和2年3月

三好研究所所長

藤本 一夫

## 目 次

あいさつ

三好教育研究所 所長 藤本 一夫

### —— 委嘱研究員研究 ——

- 未来へつなぐ幼稚園教育の創造 ..... 1  
「身近な環境との関わりを通じて、豊かな感性や表現する力を養う」  
～身近な人との関わりを通して～  
足代幼稚園 教諭 藤川 孝子
- 言語活動の充実を目指した外国語活動 ..... 4  
～コミュニケーション能力の素地から基礎へ～  
加茂小学校 教諭 鮎川 美加
- 主体的・協働的に算数を深く学ぶ子供を育てる授業の在り方 ..... 7  
～数学的活動の工夫を通して、子供が自ら考え、深く学び合う授業の実践～  
西井川小学校 教諭 伊丹 智子
- 小規模校における人権教育の取り組み ..... 10  
～多様な意見を取り入れ、考えて行動できる児童をめざして～  
馬路小学校 教諭 前田 泉季
- 主体的に学び、コミュニケーション能力の素地を育成する指導方法の工夫 ..... 13  
～「聞くこと」を中心とした英語表現に慣れ親しむ活動～  
山城小学校 教諭 喜多 芳恵
- 自他を大切にし、主体的に災害と関わることでできる生徒を育成する防災教育の創造 ..... 16  
西祖谷中学校 教諭 谷口 真美
- さまざまな人々との関わりによる自己肯定感の育成 ..... 19  
～職場体験学習における取り組み～  
東祖谷中学校 教諭 藤村 美咲
- 令和元年度 教育研修・研究事業報告 ..... 22
- 歴代委嘱研究員一覧（平成元年～） ..... 24

## 研究主題

### 未来へつなぐ幼稚園教育の創造

「身近な環境との関わりを通じて、豊かな感性や表現する力を養う」

～身近な人との関わりを通して～

足代幼稚園 藤川 孝子

#### 1 はじめに

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園は学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して子どもを育成することを基本としている。そのため幼稚園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、幼児の遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが、大切であるともいわれている。

しかし、子どもたちの生活環境は変化し、地域との関わりや同年齢の子どもたちとの関わりも、希薄化していることは否定できない。そこで幼稚園生活の中で、幼児が身近な人と主体的に関わり試行錯誤したり考えたりしながら、豊かな感性や表現する力を養うための関わりについて、実践に取り組むことにした。

#### 2 研究の視点

- ・幼児が様々な交流を通して、身近な人と親しみをもって関われるように環境づくりをする。
- ・幼児が友達や身近な人と主体的に関わり、楽しさを味わえるような体験を積み重ねていく。
- ・幼児がもっている豊かな感性や、表現する力を発揮できるように、教師が適切な援助をしていく。

#### 3 実践事例

<事例1> また読んでよ ～絵本の読み聞かせ～ 年間を通して

本園では、学校支援隊の方が絵本の読み聞かせを、年間を通して行ってくれている。月約6回のペースで園に来てくださり、いろいろなジャンルの絵本を読んでくださっている。

初めての読み聞かせの日、1番に登園したR児は「今日は絵本を読みに来てくれるんよなあ。」H児も「だれがきてくれるんだろう。」子どもたちは、どんなことがあるのだろうか、誰が来てくれるのだろうか、ドキドキしている様子であった。

読み聞かせのNさんが来園されると、うれしくてワイワイ、ガヤガヤの子どもたちであった。R児が「あっ知っとる。Tさんのおばあちゃんよなあ。」と第一声。みんなで挨拶をした後に、S児が「なあなあ、Nさんに名前おぼえてもらわん。」E児「えー恥ずかしいけど、まあいっか。」と、一人一人が自己紹介をした。恥ずかしそうなK児の姿があったが、Nさんはみんなの名前をじっくりと聞いてくださった。Nさんの「みんなに絵本が大好きになってほしいから、おばあちゃんは一生涯懸命に絵本を読むから聞いてくださいね。」という言葉から始まった。はじめは、それぞれが絵本をみての思いを隣の友達と話をしたり、興味のない絵本の時には、ごそごそしたりしていたが、繰り返し読んでくださっているうちに、子どもたちは絵本に吸い込まれるように静かになっていった。

自分が思ったことをすぐに口にしてしまうT児。ある日のことNさんが“おむすびころりん”の

絵本を読んでくれようとした時に「僕その絵本知っとる。」「知っとっても知らないお友達もいるから、聞いてくださいね。」とNさん。読んでくれている途中にも「おにぎりが入っていくんよ。」「おじいさんも入っていくよなあ。」と話し始めたT児。「もう、言わんといて。おもしろないわ。」とH児。「さきさき言うたらいかんだろう。」とM児。保育者も、自分の口に人差し指をあてて、シーという合図を送った。何度か口を出そうとしたT児であったがその都度、保育者は背中をそっと擦ったり、合図をしたりして「ちゃんと聞けたね。」と声をかけていった。



1学期の読み聞かせの最後の日、Nさんは子どもたちに「しっかりお話を聞いてくれてうれしいなあ。夏休みになるけど、おうちでも絵本読んでもらってね。」と声をかけてくださった。「2学期も来てくれるん。」とH児。「また“いいから いいから”の本持ってきてよ。」とM児。Nさんも「2学期も来るからね。おばちゃんもみんなに会えるのを楽しみにしとくわな。」と言ってくださった。2学期にも会えることを楽しみに、約束をして別れる子どもたちであった。帰り際に、Nさんが「子どもたちが、落ち着いてお話を聞いてくれるようになってうれしいわ。」と保育者に伝えてくれた。Nさんも温かく子どもたちの成長を見守ってくださっていて、うれしく思った。

#### ○省 察

- ・入園当初は、全体的に絵本に関わることが少ない子どもたちの姿があった。読み聞かせの回数が増えるにしたがい、自分たちから絵本コーナーに行き読む機会が多くなった。
- ・絵本コーナーで、一人で絵本を見ている友達がいると「いっしょに見せて。」と側にいって、絵本を見る姿が多くなった。いっしょに共有することで、お互いに思いを伝え合い、心豊かになっていっているように感じた。
- ・読み聞かせを通じて、Nさんのようなおじちゃんやおばちゃんが、私たちの周りにもいてくれるんだと気づくよい機会となった。
- ・保育者は、絵本コーナーを見やすく、借りやすい場所にしなければならないと反省した。
- ・幼稚園では、家庭への絵本の貸し出しを行っている。Nさんから幼稚園のおすすめの絵本を、家庭で読んでもらってもいいのではないかという提案をいただいた。自分で好きな絵本を選ぶ方法と、園から読んでもらいたい絵本を紹介し、グループに分けて回覧する方法を行った。読書の幅が広がり、すばらしい絵本に触れるよい機会となったように思われる。しかし、保護者の方からは、いそがしくてなかなか読んでやれないという声も聞かれたが、K児の母からは「今まで家であまり絵本に興味を示さなかったのに、幼稚園でたくさん絵本を読んでもらってうれしそうです。絵本を借りてかえり、家で絵本を見ることが多くなりました。また、妹にも絵本を見せたり、読んであげたりしています。私も、子どもといっしょに絵本を楽しんだり、話をしたりできてよかったです。」というお話をいただきました。読み聞かせを通して子どもたちに、少しずつでも豊かな感情が育っていることを感じた。
- ・2学期に入り、読み聞かせがスタートした。Nさんが「夏休み元気に過ごせましたか？ 2学期も頑張ってるね。」と優しく声をかけてくださった。T児が「Nさんも元気だった？」と声をかけていた。相手を思いやる気持ちも育ってきたことをうれしく感じた。

## <事例2> 豆を収穫したよ

学校支援隊のKさんが、ツタンカーメンの豆を幼稚園で栽培してみませんかと声をかけてくださり、4年前から幼稚園で栽培しはじめた。現在の1年生が、昨年11月上旬にKさんに教えてもらって植えた豆が収穫の時期になったので、1年生といっしょに収穫することになった。1年生と活動するのは、初めてのことである。班ごとに分かれて自己紹介から始まった。児童クラブで知っているお兄さんお姉さんもいれば、初めて会うお兄さんお姉さんもいて、お互いに恥ずかしそうであった。豆のさやを収穫している時、1年生のMさんが「やさしくとってあげてよ。中に豆があるけんな。」と声をかけてくれた。1年生は昨年体験をしていて、そのことを思い出し幼稚園さんにアドバイスしていた。さやの中から豆を出している時、幼稚園のM児が「わー豆さん、かわいい。」「この豆、グリンピースといっしょでなあ。」とお家でグリンピースの収穫をしたことのあるR児が話し始めた。側にいた1年生のYさんが「でもな、ちょっと違うんよ。後で不思議な色になるんよなあ。」Iさんが「そうそう、先生がやってくれるけん待っときなよ。」と教えてくれた。次の日に、ツタンカーメンの豆ご飯を炊いた。それを見て子どもたちは「わーこれって昨日の豆?」「お赤飯みたいやなあ。」「豆の大変身じゃなあ。」と昨日と違う色の豆に、不思議がっていた。H児「おれらも、また植えたいよなあ。」T児「家に持ってかえって、植えてみたらどう。」と話がはずんでいた。



### ○省 察

- ・子どもたちにとっては、はじめて見るツタンカーメンの豆である。豆にもいろいろな種類があることが分かった。
- ・幼稚園になって初めての小学生との交流が、ツタンカーメンの豆の収穫となった。1年生の豆を取る姿や言っていることを聞いて「できるかなあ。」「やってみようかなあ。」と1年生があこがれの存在となっていた。また、1年生の先生から「今度は、おいもをいっしょに植えましようね。」と声をかけてもらい、楽しみにする姿が見られた。
- ・今年も11月に、学校支援隊のKさんが来てくださった。子どもたちに、ツタンカーメンのことについて話をしてくださり、いっしょに植え付けをした。M児の「早く大きくなってね。」と植えている姿があった。家庭において、自分たちで野菜を植えて収穫をする体験は、少ないと思う。学校支援隊の方に支えられて子どもたちは、よい体験ができていると思う。今後もいたわったり、大切にしたりする気持を持ち続けてほしいと感じた。

## 4 おわりに

家庭においても地域においても人間関係が希薄化し、子どもたちの人と関わる力が弱まってきているといわれている中で、幼稚園において地域の人たちと積極的に関わる体験を持つことは、人と関わる力を育てるうえで大切である。人との関わりを通して一人だけで生きているのではなく、周囲の人たちと関わり合い、支え合って生きているのだということを感じ取っていくのだと思う。

そのためには、保育の中で地域の人々と交流し、活動する場を多くもつことも大切であると思う。子どもたちにとってその活動が有意義であることはもちろん、地域の方にとっても有意義なものとなるように工夫していきたい。

## 研究主題

# 言語活動の充実を目指した外国語活動 ～コミュニケーション能力の素地から基礎へ～

加茂小学校 教諭 鮎川 美加

## 1 はじめに

今回「新学習指導要領」が改訂され、小学校では来年度から高学年の外国語活動の教科化が全面実施されることになった。音声中心の外国語活動に「読むこと」、「書くこと」の言語活動が新たに導入される。

小学校で英語専科教員として外国語活動に携わり2年が経とうとしている。東みよし町の取組としては、中学年は週1時間、高学年は週2時間の外国語活動を行っている。外国語活動が好きな児童が多く、様々な活動に意欲的に取り組んだり、進んで英語で話しかけたりしてくれる。その一方で、学年が上がるにしたがって、難しいと感じたり、話すことに対して苦手意識を持ったりする児童も多い。ゲームや活動が楽しいだけでなく、英語を使って友だちや周りの人と話したり、伝え合ったりすることの喜びや楽しさを実感し、積極的にコミュニケーションを図れる児童を育てたい。

## 2 研究の目的

新学習指導要領では、「目標に示された資質・能力は、言語活動を通して育成されるものである。」と示されている。言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動となっている。

これまでの授業を振り返ってみると、①子ども達に十分な言語活動の場を設定していなかったこと②状況・場面・目的を考えた授業作りができていなかったことが課題として見えてきた。

そこで、今年度の取組として、言語活動の充実を図ることをテーマとし、授業の改善に臨んだ。また、中学校の学びへとつなげるために、6年生では書くことに慣れ親しませたいと考え、授業の後半には書き写す活動を取り入れてきた。

## 3 研究の方法

### (1) 実態把握（アンケート調査）

4月に高学年の児童に対して外国語活動に関するアンケートを行った。「外国語活動が好き」と答えた児童は8割見られた。一方で、「英語を使って、自分の思いや考えを表現したり、友だちとやりとりをしたりすることが得意ですか。」という質問に対して、「あまり得意ではない。」という児童が4割近くいた。

### (2) 具体的方策

#### ①授業改善

○ゴールの明確化・・・その単元で児童に身に付けさせたい力や具体的な姿をイメージし、単元設定をする。

○題材を選定・・・子ども達が「言いたい、伝えたい、聞きたい」と思えるような題材を選ぶ。

○Small Talk・・・毎時間行うことで、既習表現の定着を図り、自信を持ってやりとりができるようにする。

○アクティビティ…児童が考えを深める場を設定し、自分の思いや考えを伝え合うような活動を取り入れる。

## ②教材研究

○ICTや実物教材の活用…パワーポイントを使って児童の実態や興味関心に応じて作成。担任やALTの実際の写真を紹介したり、世界各地の映像や動画を使ったりしながら、子ども達に分かりやすく、また興味が持てるように工夫。

○学級担任との連携…担任だからできる児童との関わりや他教科と関連した授業の題材選び。

○ALTとの連携…授業の打ち合わせの時間の確保、授業の中での役割の明確化。

○ワークシートの活用…調べ学習や書く活動の際、単語リストの中から選び、書き写しができるようなワークシートの工夫。

## ③学習形態の工夫

○ペア活動やグループ活動、学級全体での発表

## 4 実践例

### (1) Small Talk



Small Talk では、既習表現を使って、対話を継続させ、友だちと楽しく伝え合うことを意識させた。その中で、児童が伝えたい、聞きたいと思う題材やその単元に沿った内容等をテーマとして準備した。例えば、修学旅行後には、「US」での好きなアトラクションとその理由」をテーマに Small Talk をさせた。児童は、修学旅行で実際に体験した乗り物を楽しそうに語り合っていた。

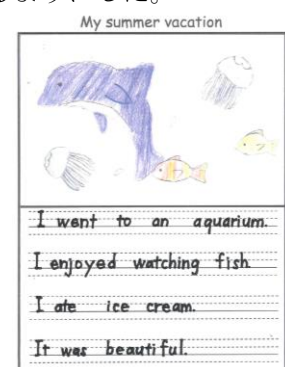
Small Talk を続ける中で、会話を継続させるために必要となる表現：「対話の開始」「繰り返し」「一言感想」「確かめ」「さらに質問」「対話の終了」等も指導しながら、少しずつその定着を図った。また、活動の途中で、「伝えなかったけど伝えられなかった表現」を学級全体で確認したり、良かった点などをほめたりして、活動意欲を高め、理解や定着につながるようにした。

### (2) Let's talk (We can 2! My summer vacation)

言語材料である動詞の過去形(ate/saw/went/enjoyed/was)を使って、話題を変えながら、少しずつ言語材料を増やした。また、スモールステップで繰り返し友だちと伝え合う活動を取り入れ定着を図った。

### (3) Let's read and write (We can 2! My summer vacation)

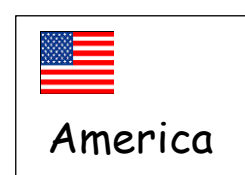
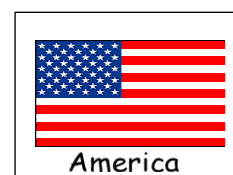
最終ゴールである「夏休みの思い出アルバム」作りに向けて、毎時間授業の最後に、ワークシートを使って、慣れ親しんだ文を読み、書き写す活動を続けた。



夏休みの思い出絵日記

### (4) フラッシュカードや小カードの工夫

文字と音のつながりに慣れ親しませるために、表と裏で絵と単語の大きさが違うフラッシュカードを作成し、児童の学習進路や実態に合わせて使い分けた。







日本文化を紹介しよう



先生へのドリームメニュー



ペア活動

## 5 結果と考察

### ◎子どもの振り返りより

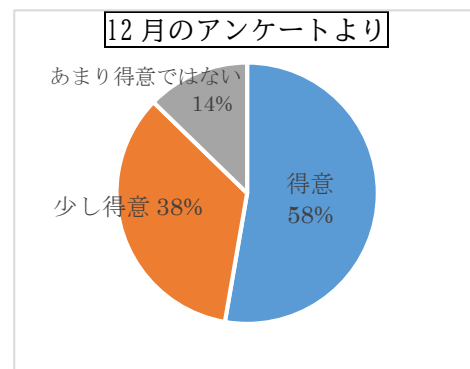
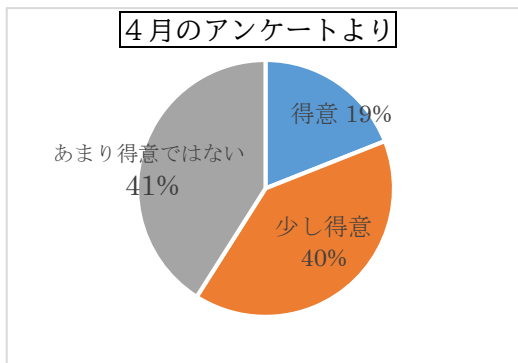
- ・スモールトークで毎時間違う内容を友だちと話をするのが楽しかった。スモールトークを続けていると、会話が少しずつできるようになり、話すことが少し得意になった。
- ・質問をしたり、会話を続けたりすることは難しいけど、何とか伝えようと言葉をつなげた。友だちに伝わったときには、嬉しかったしとても楽しかった。

#### (1) (成果)

- ・6年生において、書くことに慣れ親しむ児童が増加した。
- ・学び合いながら、意欲的に友だちとコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。
- ・「外国語を使って、友達と伝え合うことが得意」「少し得意」という児童が増加した。

#### (2) (課題)

- ・子どもたちの学習の学びや成果が見取れるような振り返りカードの活用とその工夫。
- ・授業の中で、子どもを見取り評価する場面の明確化。
- ・やり取りを行う際に必要な「相手に質問をする力」にも課題が残る。



## 6 終わりに

今年度の取組から、「英語で考えや気持ちを伝え合うことは難しい。」と感じる児童が見られた。この言葉にはとても深い意味が込められていることを鳴門教育大学の佐藤先生のお話で知った。それは『「難しい。」と感じることは、考えた過程であり、考えた証である。子どもが思考している授業の中では、子どもが考えながら表現するので、スラスラ会話ができるとは限らない。それを子どもは「難しかった」という言葉で表現してしまう。』という内容だった。来年度の全面実施に向けて、子どもの頑張りを教師が見過ごさないためにも、しっかりと見取り、評価をしていくことが大切であると感じた。そして、私自身進んで研修に参加したり、スキルや指導法を高めたりしながら自己研鑽に努めていきたい。

参考文献～小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（文部科学省）

## 研究主題

主体的・協働的に算数を深く学ぶ子供を育てる授業の在り方  
～数学的活動の工夫を通して、子供が自ら考え、深く学び合う授業の実践～

西井川小学校 伊丹 智子

### 1 はじめに

本学級の児童は、今まで勉強したことを使って、教師に言われたことは素直に行っている。しかし、自分の考えを自分なりの方法で表現し、相手に分かりやすく説明することや友達との話し合いを通じて自分の考えを広げたり深めたりすることには課題があった。そこで、学習の見通しが持てる手だてや数学的活動を楽しめるような機会を設けたり、よりよい解決方法になるための議論をもつことにより、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

### 2 研究の仮説

- 本時の見通しをきちんともたせることにより、自力解決の保証ができるのではないか。
- 学習の流れをつかみ、児童の発言を全体で共有することにより、協働的に学べるのではないか。
- 本時で学んだ「算数のきまり」を活用させることにより、より深い学びがもてるのではないか。

### 3 研究の視点

- 学ぶことに興味や関心を持ち、主体的に問題解決できるための教師の支援
- 数学的に表現し、伝え合うことができる授業展開の工夫
- 自分の考えを広げ、深め合うことができる教師の発問

### 4 研究の実際（4年）

(1) 単元 「折れ線グラフ」

(2) 単元の見通し

折れ線グラフのよみ方やかき方を理解する。

(3) 単元の評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
資料を折れ線グラフを用いて表すことのよさや有用性に気づき、生活や学習にいかそうとする。	変化の様子がよくわかるグラフにつくりかえるための方法を考えたり、変化の特徴を傾きから考えたりすることができる。	目的に応じて資料を折れ線グラフに表したり、それを読んだりすることができる。	折れ線グラフは数量の変化の様子を分かりやすく表すことができると知り、その表し方や読み方を理解できる。

(4) 本時の目標 (6 / 7)

変化の様子がよく分かる棒グラフや折れ線グラフを見比べながら、3つのグラフを関連づけて読み取ることができる。

(5) 展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	具体の評価規準 (評価方法)
1 5月の太陽光発電量の棒グラフと日射量と気温の折れ線グラフを概観する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの単位や対応する目もりの位置を確認することにより、数値が示す値を理解できるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">kWh (発電量)   kWh/m<sup>2</sup> (日射量)</p>	
3つのグラフを見比べてわかることをみつけよう。		
2 3つのグラフを見比べて分かることをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電量が多いときは日射量も多いことに注目することにより、2つの量の関係を考えることができるようにする。</li> <li>折れ線グラフの傾き具合をとらえることにより、気温は緩急の差が小さく、日射量は緩急の差が大きいことを読み取れるようにする。</li> </ul>	<p>関棒グラフと折れ線グラフの活用に関心をもって取り組もうとしている。 (観察)</p>
3 5月20日から29日までの太陽光発電量を予測する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月1日から19日までの太陽光発電量と日射量を関連づけて分かったことをもとに、5月20日から29日の太陽光発電量を予想できるようにする。</li> </ul>	<p>考変化の様子を見比べながら、3つのグラフを関連づけて読み取ることができる。(ノート)</p>
4 複数のグラフを組み合わせ合わせた資料から、その有用性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や地図帳、新聞などでも活用されていることに気づくことにより、グラフへの理解を深めることができるようにする。</li> </ul>	
5 本時の学習を振り返り、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き始めを「棒グラフと折れ線グラフを見比べてみると～」にすることにより、本時で分かった内容を書くことができるようにする。</li> </ul>	

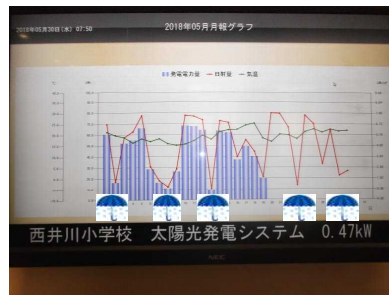
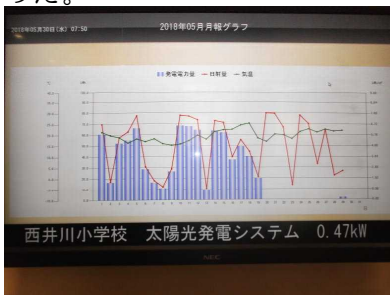
(6) 評価する状況と具体的な支援

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎様々な情報を多面的に正しく分析・整理するために、複数の情報を関連づけて読み取ることができる。</li> <li>○教科書や地図帳、新聞など日常よく見かけるグラフに関心を持ち、他教科や生活に学習内容を活かそうとしている。</li> </ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎それぞれの単位や目もりの位置を確認させ、棒の高さや直線の傾きをもとに数値を読み取り、比較できるようにする。</li> <li>○他教科の教科書や新聞などを見せ、書かれている内容をグラフが視覚的にわかりやすくしていることを実感させる。</li> </ul>

## 5 成果と課題

### <成果>

- ・ 前時で年間降水量についての折れ線グラフを学習したとき、子供たちはその傾きに着目することにより、6月は雨が多いから降水量が多い、冬は雪が降るから降水量が多いなどの意見が出ていた。今回は、太陽光発電量の棒グラフと気温の折れ線グラフと合わせたグラフから「太陽光発電量が少なく、降水量が多いからこの日は雨だと思う。」「気温が高く、太陽光発電量が多いから晴れているんじゃないかな」など、グラフから分かることを児童なりの言葉で表現できていたことは、主体的に問題解決できていたと考えられる。
- ・ 複数のグラフを組み合わせた資料が掲載されている新聞を配って、その内容を記事とともに考えるようにすると、児童がとても興味を示していた。資料がどのようなことを表しているのかは、新聞の内容も参考にするとよくわかる体験を、今後の学習でも取り入れていきたい。
- ・ 授業後、児童に折れ線グラフに表す前の数値表を見せたところ、「これがグラフになっているんだ。」「グラフってすごいなあ。」とグラフの良さについて感じ取っていたようだった。



(太陽光発電システムのグラフ)

(雨マークを重ねてみると・・・)

(授業風景)

### <課題>

- ・ 本時の振り返りを書くとき、書き始めを「棒グラフと折れ線グラフを見比べてみると」にすることで、子供たちは自分の考えを書きやすくなった。しかし、その着地点をどこにするかを、教師がきちんともっていることが必要だと感じた。子供がどう理解しているのかを確認することと同時に、次時の学習への意欲づけになる振り返りが書けるようにする必要がある。
- ・ 授業中に子供がつぶやいた気づきは大切にしなければならないが、それを教師が説明してしまった時があった。これでは、児童同士の対話がうまれない。「どうしてそう思った？」と児童に返したり、「○○さんと○○くんはこう言ったけど、みんなはどう思う？」と投げかけたりすることが重要だ。

## 6 おわりに

子供たちが、主体的・協同的に算数を深く学ぶためには、考えを広げ、深め合うことができる教師の発問が重要になる。教師自身がクラスの中で一番知りたい、わかりたい子になり、児童全員を学ぶことに関心を持たせなければならない。今後も数学的活動の工夫を通して、子供が自ら考え、深く学び合える授業実践を目指し、努力していきたい。

小規模校における人権教育の取り組み  
～多様な意見を取り入れ、考えて行動できる児童をめざして～

馬路小学校 教諭 前田 泉季

### 1 はじめに

本校は、全校児童5名の小規模校である。休み時間になると全員で校庭や体育館に行き、一輪車やドッジボールをして楽しく過ごしている。学習面では、意欲的に取り組んだり、自分の考えを伝えたりしようと一人一人が努力する姿が見られる。また、登下校中には、地域の方が声をかけてくださるなど、児童は温かく見守られながらのびのびと学校生活を送っている。運動会、田植えやプール清掃などの学校行事に、たくさんの地域の方に参加していただき、学校・家庭・地域の連携を生かし共通認識の上に立った「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校運営を行っていることが本校の特徴である。

### 2 研究の目的

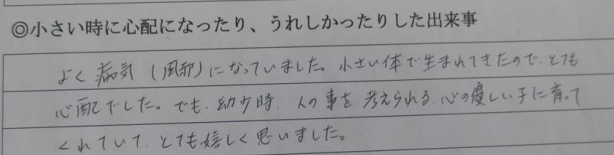
一人一人が自分の活動に積極的に取り組むが、他学年の児童が困っている時などに、進んで教えたり助けたりする場面が少なく、自分の思いを優先して行動していることがあった。また、周りの人に対して関心が強くなく、保護者や地域に支えられて学校生活を送っていることが当たり前だと思い、感謝の気持ちを表すことが少ない現状もあった。普段の授業では、教師と児童の1対1または1対2の学習となるため、さまざまな人との関わりが少なく多様な意見を聞くことが難しい。そこで、学校・家庭・地域と関わりを重視しながら、友だちや周りの人への気遣いなど、思いやりがある行動ができる児童に育てたいと考えた。

### 3 研究の方法

#### (1) 全校児童で行う人権学習 「ぼくが赤ちゃんのときのこと」(3年 ひかり)

##### ①事前準備

事前に保護者から児童の名前の由来や産まれた当時のことなどを質問した。児童が産まれることを待ちわびていたことや、思いを込めて名前をつけたことなど、当時の家族の思いを手紙に書いて提出してもらった。



##### ②活動記録

児童の実態を考え、「ぼくが赤ちゃんのときのこと」の資料を活用し、全校児童で人権学習を行った。授業の中で保護者からの手紙を読み、名前の由来や産まれてきた時の様子を確認した。保護者からの手紙に喜ぶ児童も多く、自分が周りの人から愛情をもって育てられてきたことを学習した。また、小さい時の出来事を他の児童と共有したことで、自分と同じように友だち

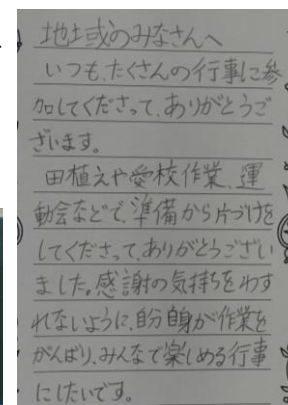


も大切に育てられてきたことを認識することができた。今回の学習で、自分たちが家族に愛情

をもらいながら育てられていることを確認し、周りの人を大切にしようとする気持ちを学習することができた。

## (2) 授業参観での人権学習 「学校行事について」

自分たちと保護者や地域の方の関わりについて考える学習を行った。学校行事の中で、多くの方に参加していただいている「田植え」「愛校作業」「運動会」について授業の中で取り上げ、保護者や地域の方にしてもらったことや、なぜ参加して下さるのかを考える活動を行った。保護者にも協力してもらい、児童の質問に答えていただいた。保護者や地域の方が「馬路小学校の子どもたちのため」という思いから協力して下さることを知り、自分にできることは何かを考えた。そこで、「手紙で感謝の気持ちを伝える」という意見が出たので、地域の方に宛てた手紙を書き、自分たちを支えてくださる方に感謝の気持ちを伝える活動を行った。学習の終わりには、「普段の生活から感謝をしたり、自分自身が学校行事に一生懸命取り組んだりしていきたい。」と振り返りができた。



## (3) 近隣校と行う合同人権学習 「解放令」(6年 ひかり)

普段の授業で、同学年の多様な意見を聞き、自分の考えを広げることが難しいため、合同人権学習では、同学年との話し合いを重視した授業を行った。6年生ひかりの「解放令」の資料を使い、士族や華族の人と差別をうけてきた人のそれぞれの生活や気持ちを考えた。法令が出されても人々の生活や差別意識が変化しなかったことを学習し、なぜ差別意識がなくならなかったのか、グループで話し合いを行った。差別意識に変化がなかったことに対しておかしいと考え、自分たちの生活においても、自分の考え中心で生活するのではなく、相手のことも考えて行動したいという発言があった。今回の学習では、身分によって生活が大きく変わることに對して許せない気持ちを持ち、自分の生活でも、周りの人に対して差別や偏見をもたず、相手の気持ちにたって行動をしようとする考えがで



きた。近隣校と合同学習を行ったことにより、自分の考えを伝えたり、友だちの意見に共感したり、同学年の児童それぞれの多様な考えや価値観を共有することができた。

#### (4) 地域の方を招いた学校行事 「馬路フェスティバル」

誰でも楽しく参加できるゲームはどんなものがあるか、他学年と相談しながら準備や計画を考えた。また、お世話になっている方に感謝を伝えるために、児童が相談して手作りのしおりにお礼をかけたプレゼントの作成を行った。当日は、たくさんの地域の方が来校し、児童が考えたゲームに参加していただいた。児童も呼び込みをしたり、地域の方と話をしたりして交流することができた。プレゼントのしおりを渡す際は、お礼を言い、感謝の気持ちを伝えることができた良い機会となった。地域の方にも「子どもたちの工夫した遊びを体験でき、とても楽しかった。」と感想をいただき、児童も喜んでいました。

### 4 結果と考察

自分のことだけでなく、周りをみて行動する姿が見られた。他学年に指示をだしたり、教えたりする場面がふえた。また、「BちゃんやCくんはこんな良さがあるんです。」と担任に友だちの良さを見つけて伝えることもあり、友だちの良さを認める場面もあった。また、近隣校との合同人権学習では、差別意識をもたず自分ならどうするか考え、同学年の児童と意見を交換することができた。自分から積極的に発言したり、友だちの意見を聞いたりして、同学年の児童とも多様な意見を交わせたことは本児にとって大切な経験となった。さらに、授業や学校行事を通して、保護者や地域の方など、たくさんの人に支えてもらって生活していることに気づき、学んだことを生かして感謝する機会を自分から増やそうとする姿が見られた。学習発表会では、「馬路小や地域の良さを紹介して感謝の気持ちを伝えたい。」と言い、たくさんの方が来校する行事で自ら感謝の気持ちを伝えようと計画したことから、児童の成長がみられた。



### 5 おわりに

普段の授業では、1名または2名で学習しているため、本校の児童にとって、多くの人と関わることは、多様な価値観を育てたり、自分の意見を発信したりする大切な場となる。対話的な活動の中から、今後中学校に進学し、大きな集団の中でも自分の個性を伸ばしながら相手のことが考えられる思いやりの心が育つように、継続した指導を行いたい。

## 1 はじめに

2020年度から新学習指導要領が全面実施されるため、外国語教育について理解を深めておくことが求められる。そこで、児童が英語表現に慣れ親しみ、主体的に聞いたり話したりする力を高めていく実践研究を行うことにした。ここでは児童に身につけさせる力として、基本となる「聞くこと」を取り上げた。「聞くこと」は、「話すこと」や「読むこと」、「書くこと」につながる重要な活動であり、コミュニケーションの要である。外国語活動の指導は、音声を中心となる。日本語には無い英語のリズムや発音等をしっかりと聞かせることで、英語の音声に慣れ、自分から理解しようとする態度や話される内容について考える力を育てることができると考えた。

## 2 実践の概要と考察

### 聞くことを中心に据えた単元構成(3年生 Let's try! Unit5「What do you like?」より)

#### ①第1時「身の回りの物の言い方を知ろう」

最初の活動では新しく出てきた言葉に慣れることを中心に据え置き、活動を組み立てた。

この単元で出てくる言葉は日本語としても耳にするものが多く、児童が慣れるのに時間はかからなかった。「聞くこと」が中心となる活動「おはじきゲーム」でも、特に難しいと感じている児童はあまり見られず、単語を聞き取り、楽しくゲームを進めていた。

#### ②第2時「好きな物を聞いてみよう」

第2時での活動は、スリーヒントクイズと【Let's Listen】を「聞くこと」が中心となる活動として取り入れた。スリーヒントクイズは、3つのヒントからどのカードのことかを考えるゲームである。ヒントには簡単な言葉を選んだが、児童には初めて聞くものが多く、初めは戸惑っていた。しかし、ジェスチャーをつけたり、何度も繰り返し言ったりすることにより、少しずつヒントを聞き取っていた。【Let's Listen】では、繰り返し出てくる「What ~ do you like?」の表現を聞くことで、好きな物の尋ね方を学んだ。また、事前に【Let's Chant】を聞いていたことが表現に慣れ親しむ手助けとなった。但し、まだ「話すこと」に関しては抵抗があるようで、特に発音については不安をこぼす児童がいた。

#### ③第3時「好きな物をたずねよう」

この時間では、前時で聞いた「What ~ do you like?」を覚えていたり、【Let's Chant】を聞いたりしてきたこともあって、ずいぶん好きな物の尋ね方になじんでいるようであった。また、この時間は「聞くこと」から「話すこと」へと活動が移ったが、「話すこと」に抵抗を感じる児童は少なかった。【Activity1】の、友達の好きな物を予想し、それを確かめるという要素が、児童の好奇心や目的意識を刺激していたこともあり、積極的に尋ねあうことが出来た。

#### ④第4時「自分の尋ねたいものをみんなに聞いてみよう」

最後の時間には、「What ~ do you like?」の表現に慣れ親しんできており、またこの単元で出てきた単語を覚えている児童も増えてきた。そのため、初めに行った英語カルタではほとんどの児童がどのカードを言われているのかを聞き取っており、楽しく活動をする姿が見られた。また、【Activity2】のインタビュー活動では、食べ物と色に加え、自分が尋ねたいものを



決めて、友達と交流した。何と言ったら良いのか分からなくなった児童もいたが、ペアになった児童が教えることで、お互いに助け合いながらインタビューをしていた。また、友達の好きな物を改めて知ることができたり、友達の良かったところを見つけられたりしていた。

○単元指導計画 ※太字が「聞くこと」が中心となる活動

時	目標 (◆) と主な活動 ([ ], ○)	◎評価 (方法)
1	◆日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、身の回りの物の言い方を知る。	◎身の回りの物の名前を言ったり聞いたりしている。(行動観察)
	○指導者の話から活動への見通しをもつとともに、身の回りの物の言い方を知る。 <b>【Let's play】おはじきゲーム</b> ○指導者の話から、何が好きかを尋ねる表現の言い方を知る。 <b>【Let's Chant】</b> What do you like?	
2	◆身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	◎好きな物を尋ねたり答えたりする表現を聞き取っている。(行動観察, 振り返りカード分析)
	<b>【Let's Chant】</b> What do you like? ○スリーヒントクイズ <b>【Let's Listen】</b> ・それぞれの登場人物が好きな物を聞いて、線で結ぶ。 <b>【Let's Watch and Think】</b> ・登場人物の好きな物を予想し、尋ねる。 ○ペアで尋ね合おう。	
3	◆何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。	◎好きな物を尋ねたり答えたりしている。(行動観察, 振り返りカード)
	<b>【Let's Chant】</b> What do you like? ○Yes/No クイズ <b>【Activity 1】</b> ・友達の好きな物を予想して尋ね合う。 <b>【Activity 2】</b> ・次時に行う活動で、どのようなカテゴリーについて尋ねるかを考え、発表する。	
4	◆相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。	◎相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかをインタビューし合っている。(行動観察, 振り返りカード)
	<b>【Let's Chant】</b> What do you like? ○英語カルタ <b>【Activity 2】</b> ・好きな物を尋ねたり答えたりして、インタビューし合う。	

## 第2時終了後の振り返りカード

<Unit5> What do you like? 振り返りカード			
10月 10日			
	よくできた	できた	できなかった
○えがおで、楽しく活動をしましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○はっきりした声で話をしたり、言葉の練習をしましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○クイズで出た言葉を聞いて考えることができましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○好きな物をたずねたり聞き取ったりすることができましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
※今日の活動の感想（会話の楽しさや友だちのよいところ、新しい発見など）を書きましょう。			
聞いたりするのは楽しくて、英語を言うのはむずかしかった。			

## 第4時終了後の振り返りカード

<Unit5> What do you like? 振り返りカード			
月 日			
	よくできた	できた	できなかった
○えがおで、楽しく活動をしましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○はっきりした声で話したり、チャンツをしたりしましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○相手の方を見て話したり聞いたりしましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
○相手に伝わるようにインタビューし合うことができましたか。	(^o^)	(^_^)	(>_<)
※今日の活動の感想（会話の楽しさや友だちのよいところ、新しい発見など）を書きましょう。			
食べ物や色を聞けてうれしかったです。いろんな物を聞いていきたいです。			

### 3 おわりに ～ 成果と課題

「聞くこと」を中心に据えることで、外国語活動における児童の表現への不安感を軽減することができたように思われる。初めは、一人で英語を聞き取ったり、話したりするのが難しそうにしていた児童も、毎時間の様々な「聞くこと」に関する活動を通して、少しずつ慣れていき、友達やALTとのやり取りを楽しめるようになっていった。英語での説明にも、キーワードやジェスチャーを手がかりに内容を推測するなど、「分からない」という前に何とか聞き取ろうとする児童が増えてきた。

先にも述べたように、「聞くこと」はコミュニケーションの要であり、児童が積極的に表現活動を行っていくための基礎の力となるものである。そして、「聞くこと」を通して十分なインプットを与えられた児童は安心して「話すこと」ができるようになり、積極的にコミュニケーション活動に取り組むということが、今回の実践から学ぶことができた。今後は、「聞くこと」を中心としながら「話すこと」や「読むこと」「書くこと」へとつないでいく活動や単元構成の仕方を考えることが必要となる。児童が自分で思考・判断しながら表現活動が行えるよう、コミュニケーションに対する意識を高めていきたい。

1 はじめに

本校は、全校生徒12名の小規模校である。学校教育目標である「ふるさとを愛し、自他を大切にできる知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」を目指し、地域の方々の協力を頂きながら教育活動を行っている。西祖谷地区は少子高齢化が急速に進んでおり、災害が起きた場合には中学生であっても多くの役割を担い、その力が必要とされる可能性がある。そのため、防災教育として、地域の婦人会の方が教えてくださる「防災頭巾の作成」や西祖谷地区の2つの小学校とともに「小中合同防災訓練」など様々な取組を毎年行っている。

2 研究の目的

4月、生徒にアンケートをとったところ、次のようなことが分かった。

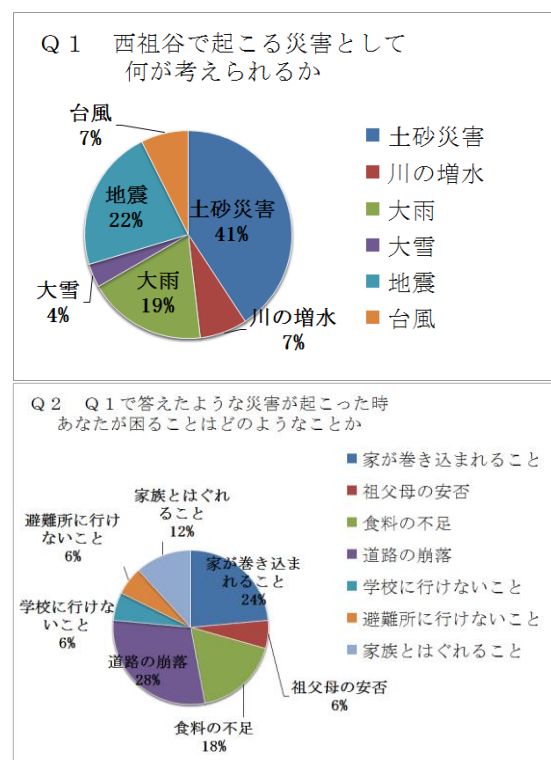
まず「西祖谷で起こる災害として何が考えられるか」という質問では、「土砂災害」が41%と他の災害に比べて意識が強いことが分かった。次いで上位に「地震」が22%、「大雨」が19%とあることから、地震や大雨によって起きる土砂災害をイメージしていると考えられる。

次に「Q1で答えたような災害が起こった時、あなたが困ることはどのようなことか」という質問では「道路の崩落」や「家が巻き込まれること」という答えが多く見られた。Q1で土砂災害の数値が高いため、土砂災害による困りごとを生徒は答えたと考えられる。

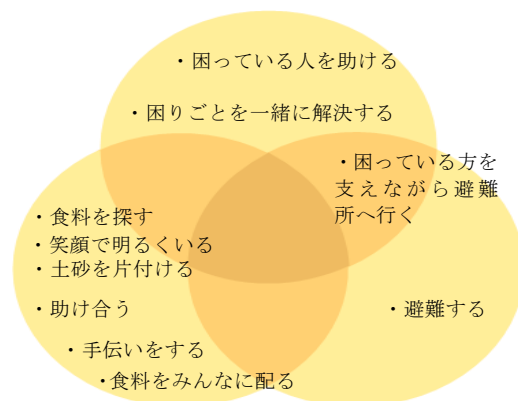
最後に「災害が起こったとき、自分にできることは何か」という質問については「食料をみんなに配る」「手伝いをする」「困っている人を助ける」など周りと助け合いに関する意見が多くあった。

Q2, Q3において、生徒はいつでもどおりの生活ができないことや緊急時には助け合いが必要になることは理解していると言える。しかし、「困っている人を助ける」「手伝いをする」などの意見から、実際起きた時、何が困るか、どのような援助ができるかという具体的なイメージを持っておらず、「自分の事として考えられているか」という面について、考えが浅い点が課題であると考えた。

防災について考えることは、万が一の場合の「人の命を救う行動」に繋がっていると考える。そのため、自分自身の命はもちろん、他者の命も守るため、「自分ならどう判断し、行動するか」など



Q3 災害時、自分にできることは何か



主体的に関わり、多様な意見から考えを深めさせることを本研究の目的とした。

### 3 研究の方法

「自分ならどうするか」を考えさせ、他者の意見から多様な考えがあることに気づかせるために「クロスロード」を用いて学習を行った。「クロスロード」とは、「阪神・淡路大震災で、災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材」<sup>1)</sup>である。災害時には、中学校であっても自分1人で判断しなければならない場面があると予想される。クロスロードでは様々な場면을提示することで、自分ならどのような判断するかを具体的に考えることができる。しかし、実際の場面ではその判断は決して容易ではない。メリット・デメリットを備えた選択肢の中から1つ選ぶことになるからだ。場面によっては全員が正しいと言う答えはないからこそ、自分とは違う意見を聞く大切さに気づき、考えを深めることができると考えた。

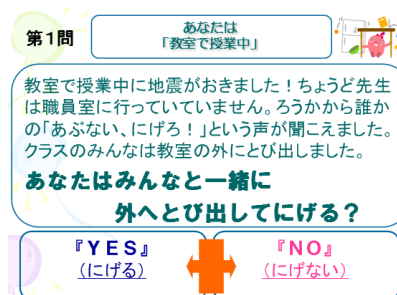
問題は全部で5問とし、いずれも「YES」「NO」のどちらかを選択するものである。生徒は意思表示のためのカードを持っていて、「YES」か「NO」か自分の考えに合わせてカードを挙げる。一斉に挙げて、多数派の意見にポイントが入るルールである。しかし、1人だけが「YES」または「NO」だった場合は例外で少数派にポイントが入る。その後、「なぜそう判断したか」について理由を発表する。同じ「YES」の意見であっても違う考えがあり、少数派の意見の中に見落としていた考えがある。そのような体験を通じて、生徒の考えを深めさせることができると考えた。

### 4 研究の結果と考察

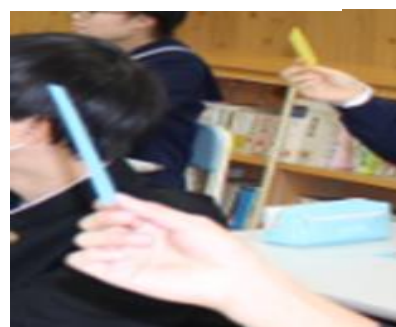
感想のワークシートから結果と考察を述べる。

感想に「自分が正しいと思っていたけれど、悩まされる意見がたくさんあった。」「どの答えがベストなのか見極めるのは本当に難しいと思った。」「やる前は自分の意見に自信を持っていましたが、他の人の意見を聞いていくうちに、本当に僕にはこんなことができるのだろうかと思いました。」というものがあつた。友だちの意見から影響を受け、揺さぶられた様子が見られた。これは実際の災害時をより具体的にイメージして考えさせることができた結果であると言える。

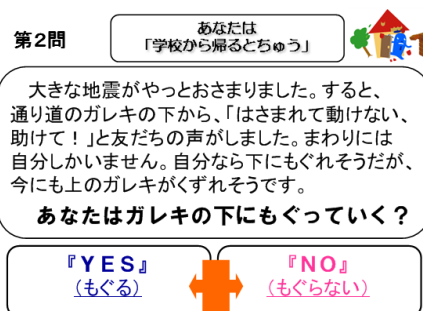
12人中6人から反応があつたのは2問目に提示した場面である。この場面では、多数派は「YES」であつた。「友だちだから助けたい。」「もし助けなくて、その子が亡くなってしまったら後悔するから。」という理由が多かつた。感想には、少数派である「NO」の意見に影響を受けた様子が見られた。「他の人に助けを求めに一旦その場を離れるという意見に『なるほど』と思った。」「自分1人で何とかしようとして、友だちにより怪我をさせてしまうのではないかという意見に驚いた。そういう考えもあるのかと気づかされた。」など、多様な意見に触れ、より自分に関わることとして考えら



パワーポイントの一部



カードを挙げている様子



2問目のパワーポイント

れていることが分かった。

また、4月のアンケートからの変容を知るために、「災害が起こったとき、困ることは何か」、「災害時、自分にできることは何か」という質問を改めて行った。

「災害が起こったとき、困ることは何か」という問いでは、4月のアンケートのように「道が崩れる。」などの意見が見られた一方で、「水分や食事を限りのある中でなんとかしなければならない。」「何日間避難所にいるか分からないから、食料がつかるともかもしれない。」「避難所に行っても落ち着かない場合がある。」「また地震が来るかもしれないという気持ちで不安になる。」「避難所になっているため、学校に行けない。」など、より具体的な場面を想定した意見が見られた。「水分や食事を限りのある中でなんとかしなければならない。」とアンケートに答えた生徒は、授業の中では「避難所に備蓄があるから食料はそんなに困らない。」と答えていた。しかし、友だちの意見を聞くことで初めに持っていた意見が変化したと考えられる。提示された場面から自分の考えを導き、さらに他者の意見を聞くことでさらに深められたのではないかと考える。中でも「西祖谷は高齢者が多く、動ける人が少ないから、食料を早く配るなど難しいことがある。」という故郷を意識した意見が見られたことは成果として挙げられる。提示した場面が西祖谷でも起こりうる場面であったことから、災害を自分に関わることとして考えられたと言える。

「災害時、自分にできることは何か」という問いでは、「逃げた先で人が足りなくて困っていたら自分から手伝いに行きたい。」「食料や布団を配るなど中学生が率先して動くこと。」「観光客の人など避難所の場所が分からない人がいるかもしれないので困っている人がいれば話しかける。」という意見があった。具体的に考えられるようになってきていることに加え、「中学生の自分ができること」を中心に考えられるようになってきていると感じた。また、観光地であることを考慮して考えられている生徒もいて、意見の深まりを感じた。

最後に「災害に備えて、どのようなことを準備しておく必要があるか」という問いを新たに尋ねた。「家族との連絡の仕方や避難経路を覚えておく。」「災害時持出袋を用意する。」「地域のみなさんの顔を覚えて、『あの方がいない』と気づけるようにする。」「家具を固定するなど、被害を最小限に抑える努力をする。」という意見があった。災害の実態を知ることで、どうすれば防ぐことができるかという点についても意識が高まったと考えられる。自分の命だけでなく、他者の命も守ることが自然と生徒から湧き出てきたことが成果である。

## 5 おわりに

本授業により、生徒は起こりうる事態や場面について考えを深められた。引き続き防災教育を重ねていき、主体的に災害と関わり、自他の命を守ることでできる判断力を身につけた生徒を育てていきたいを考える。その際、今後は深めた自分の考えを実行できる生徒を育てることに留意し、中学生として様々な役割を担えるようにすることが課題であると考えられる。また、避難所における知識が不足していると感じたので、今後は避難した後の生活などを中心に取組をしていく所存である。生徒の意見から外国人観光客への配慮について意見が挙がっていたので、避難所におけるピクトグラムの作成などユニバーサルデザインを意識した取組も合わせて行いたい。

---

## 引用文献

- 1) 防災情報のページ 「みんなで減災」内閣府 [bousai.go.jp](http://bousai.go.jp)(参照 2019-12-13)

## 研究主題

# さまざまな人々との関わりによる自己肯定感の育成

## ～職場体験学習における取り組み～

東祖谷中学校教諭 藤村 美咲

### 1 はじめに

本学級（2年生）は、男子5名、女子1名の計6名である。人数は少ないが、明るく素直な性格で、どんなことに対しても真面目に一生懸命に取り組むことができる。また、それぞれが得意なことを生かしながら、協力して学校生活を送ることができている。今年度は後輩もでき、1年生の手本になるように意識をしながら、学校行事などのさまざまな場面で活躍する姿が見られている。

しかし、小学生の頃から同じ人間関係の中で生活しているため、「こういう役割はこの子がしてくれるから自分はしない。」「言わなくても多分わかってくれているから言わない。」など、慣れ親しんだ関係であるがゆえに生まれてくる課題もある。また、失敗を恐れて消極的な行動をしてしまったり、自分の意見を周りにしっかりと伝えられなかったりと、自己肯定感が低い傾向も見られる。

### 2 研究の目的

本校の生徒は、中学校卒業と同時にふるさと東祖谷、そして親元を離れることになる。そこでは、新たな生活が始まり、人間関係も今までとは全く違うものとなる。そのような生徒たちが、心身ともに自立し、集団の中で自信をもって生活できるようにさせたいと考える。そのために重要になるのが、自己肯定感の育成だと思われる。自分で考え行動し、その頑張りを認められることによって、生徒の自己肯定感が育っていくと考える。そこで、毎年2年生が夏休みに実施している職場体験学習での新たな取り組みについてまとめていくこととする。

### 3 研究の方法と実践

本校の職場体験学習は、東祖谷にあるさまざまな事業所のご協力のもとで行われてきた。地元の職業を知り、地元で働く大人の姿を見ることで、ふるさとに対する愛着を育み、働くことの意義などを学ぶことができた。今年度はそれに加え、多様な職種から事業所を選び、また、そこでさまざまな方々と出会い、生徒にたくさんの経験をさせ、自己肯定感を育てたいと考えた。

そこで、事業所を選ぶ際に東祖谷だけでなく、西祖谷・山城・池田まで範囲を広げることにした。長年の取り組みの方法を変えることになるので、まずは三好郡市の各中学校の実施状況を確認することから始めた。実施時期やどの学年で行うのが、より生徒のためになるのかという課題から始まり、実施場所の範囲を広げることの意義など、さまざまな観点で管理職や学年団で協議を重ねた。たくさんの事業所の中から体験場所を選ぶことができる反面、広範囲に及ぶため教師側の管理が難しいのではないかなどの意見が出た。そして、保護者の方が送迎をすることができるという条件で、東祖谷以外での職場体験学習を実施することになった。

<これまでの職場体験場所>

- ・東祖谷郵便局
- ・東祖谷認定子ども園
- ・東祖谷支所
- ・昭和工業
- ・健祥会
- ・そば道場
- ・祖谷生コン
- ・中石土建

<今回の職場体験場所>

- ・池田町 … 三好市中央図書館，陸上自衛隊  
池田ケーブルネットワーク
- ・山城町 … いちよう館，ローソン
- ・東祖谷 … 森林組合，いやしの温泉郷

(1) 事前学習

- ・職業調べ
- ・適性検査，適職検査
- ・自分が仕事をする上で大事なことは？
- ・職場選び
- ・マナー講習会（西祖谷中学校で合同）
- ・電話のかけ方の練習
- ・職場への電話（職場体験のお願いと打ち合わせ）



(2) 職場体験学習の実際（生徒の感想より）

① 三好市中央図書館

細かい作業が多く最初は緊張したけれど，担当の方が優しく教えてくれたので頑張ることができた。貸し出し作業をしたときには，地域の方が「ありがとう」「頑張ってるね」と声をかけてくれて，とても嬉しかった。



② 池田ケーブルネットワーク

撮影や編集の仕方など，普段は体験できないことがたくさんできた。難しい作業もあったけれど，1つずつ丁寧に教えてくれたので最後までやりきることができた。



③ いちよう館・ローソン三好大歩危店

いちよう館では，笑顔で接客することを心がけた。ローソンでは，てきぱきと作業をしなければいけないので少し大変だった。また，接客だけでなく品出しや掃除なども同時にしていてすごいと思った。



④ 自衛隊（善通寺駐屯地）

実際に基地の中で体験をすることができて嬉しかった。隊員の皆さんが普段どのような様子で活動をしているのかも知ることができた。充実した2日間を過ごすことができたのでよかった。



#### ⑤ 三好西部森林組合

現場に連れていってもらい、いろいろな作業を実際に体験することができた。外での仕事になるので、体力も必要だということがわかった。今回の職場体験学習を、これから進路を決めるときに役立てたい。



#### ⑥ いやしの温泉郷（モノレール乗り場）

小さいときに乗ったことがあったけれど、お客さんが安全に楽しめるような工夫がたくさんあることを初めて知った。また、海外からのお客さんにも丁寧に接していてすごいと思った。自分が住んでいる地域で働く人の姿を知ることができてよかった。



### 4 結果と考察

職場体験学習を行うことによって、普段の学校生活では関わることのない方々と接することができたり、「働く」ということに対するイメージがわいたり、生徒にとって大変貴重な経験ができた。成果の1つ目は、今年度新たに組み込んだ「事業所を選ぶ範囲を広げる」ということは、生徒に対して「たくさん選択肢を与える」ということになる。保護者の協力のもとで実現できることではあるが、これから社会へ出て行く生徒にさまざまな道があることを伝え、そこから選んでいくことを学ばせるのは重要なことであると感じた。2つ目は、体験を終えた生徒から、「優しく教えてくれたので最後まで頑張ることができた。」「ありがとうとお礼を言ってもらえて嬉しかった。」などの声が聞こえてきたことである。生徒たちは、普段知っている地元の方だけでなく、初めてお世話になった職場の方やお客様にも、仕事を一生懸命に頑張れば認めてもらえるという喜びを知ることができた。自己肯定感の育成という点においては、すべての生徒に対して有効であったと思われる。



今後の課題は、体験場所が広範囲に及ぶため、教師間で事前打ち合わせを入念に行い、しっかりと連携をとりながら生徒が活動できるようにしていく必要があると感じた。

### 5 おわりに

今年度の職場体験学習では、池田町3名（自衛隊も含む）、山城町1名、東祖谷2名という振り分けになった。地元の事業所を選んだ生徒は、地元で働く大人の姿を近くで見ることができ、今まで以上にふるさとへの愛着がわいた。他の地域の事業所を選んだ生徒は、新しい選択肢が増えたことでさらに自分の興味のある職業について知ることができた。これらの経験をした生徒は、普段の学校生活でも自分にできることを探しながら、さまざまなことに挑戦しようとする意欲をもてたように感じる。また、互いの良さを認め合いながら、仲間とともによりよい成長ができるように、自分ができることに精一杯取り組んでいる。これからも、子どもたちの自己肯定感が育っていくよう、さまざまな活動にしっかりと意義を見出しながら取り組んでいきたい。そして、今年度の新たな取り組みが、次年度以降の活動にも生かしていくことができるよう学校全体で取り組んでいきたい。





## 令和元年度 教育研修・研究事業報告

### 1 研究主題

『変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く日本人の育成』

### 2 事業

#### (1) 調査研究

- ア 教育課程の研究
- イ 複式の特性を生かした学習指導方法の研究
- ウ 情報教育についての研究
- エ 地域の教育力を生かした教育活動の研究
- オ 生徒指導にかかわる諸問題の調査研究
- カ 各種研究会への参加と研究物の収集
- キ 購入図書・DVD等の紹介

#### (2) 各種研究会及び研修会の開催・共催

- ア 教育研究推進協議会・教育研究所協力委員会
  - 第1回 6月4日(火)
  - 第2回 3月10日(火)
- イ 情報教育研修会(小教研情報教育部会と共催)
  - 8月8日(木) 夏期研修会(東部福祉センター)
  - 10月15日(火) 研修会 コンピュータ作品審査等(三好教育センター)
  - 2月17日(月) 現場研修会(足代小学校)
- ウ 複式教育研修会(小教研へき地・複式部会と共催)
  - 10月18日(金) 現場研修会(白地小学校)
- エ 人権教育研究会(三好郡市学校人権教育研究大会後援)
  - 10月23日(水) 中学校分科会(山城中学校)
  - 11月1日(金) 高等学校・特別支援学校分科会(徳島県立池田高等学校本校)
  - 11月12日(火) 就学前・小学校分科会(王地小学校)
- オ 新任管理職研修 参加者 6名
  - 4月19日(金) 「管理職の心得」「学校事務について」  
講師 竹内教育長他2名
- カ 学校運営研修会(教頭・中堅教員研修会) 参加者21名

#### 開催日と講師

- |          |     |       |            |
|----------|-----|-------|------------|
| 6月11日(火) | 講義1 | 藤本 一夫 | (三好教育研究所長) |
| 20日(木)   | 講義2 | 竹内 明裕 | (三好市教育長)   |
| 24日(月)   | 講義3 | 小谷 千恵 | (池田中学校主任)  |
| 7月1日(月)  | 講義4 | 中上 斉  | (池田中学校長)   |
| 9日(火)    | 講義5 | 立花 久  | (山城中学校長)   |
| 7月24日(水) | 講義6 | 西原 芳人 | (前貞光中学校長)  |
|          | 講義7 |       | //         |
| 7月29日(月) | 講義8 | 伊丹 賢治 | (池田小学校長)   |
|          | 講義9 |       | //         |

※オ～カ「三好教育振興協議会」との連携による事業

(3) 研究委嘱，研究協力校（園）への指導・助成

ア 研究発表校

白地小学校・東祖谷中学校

イ 研究協力校・園（令和2年度発表校）

吾橋小学校・三好教育研究所

ウ 委嘱研究員

幼稚園	1区	足代幼稚園	藤川 孝子	教諭
小学校	1区	加茂小学校	鮎川 美加	教諭
	2区	西井川小学校	伊丹 智子	教諭
	3区	馬路小学校	前田 泉季	教諭
	4区	山城小学校	喜多 芳恵	教諭
中学校	3区	西祖谷中学校	谷口 真美	教諭
	4区	東祖谷中学校	藤村 美咲	教諭

(4) 各研究会，団体等との協力

ア 三好教育会

イ 三好郡・市小学校教育研究会，三好郡・市中学校教育研究会

ウ 三好郡・市学校人権教育研究協議会

エ 三好郡・市各幼稚園・小学校・中学校

オ 中・四国教育研究所連盟

カ その他教育関係諸機関

3 研究成果の発表及びその普及

(1) 三好教育研究発表会

日時 令和元年 8月22日（木） 12:50～16:40

会場 三好市池田総合体育館 サブアリーナ

○研究発表

・白地小学校 研究主題

小規模校における児童の資質・能力の育成

～「何ができるようになるか」に焦点をあてて～

発表者 小越 彩佳 教諭

・東祖谷中学校 研究主題

豊かなかかわり合いの中で，たくましく自立できる子どもの育成

～15歳の旅立ちに向けて～

発表者 西野 猛 教諭

○講演

演題 「子どもたちに生き抜く力を育む防災教育」

講師 片田 敏孝 氏

（東京大学大学院情報学環 特任教授 群馬大学 名誉教授）

(2) 研究紀要（60集）の発行と研究所報（第100号）の発行（CDによる）

各学校・園に配布，各研究機関に送付

(3) ホームページ等による広報活動

(4) 県内外教育研究所への「研究紀要・研究所報」の送付

(5) 研究員による研究成果のまとめと報告（県教育委員会へ提出）

(6) 三好教育振興協議会の事務

各種調査・整理，会議の運営など

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～)

幼稚園・小学校

年度	幼稚園	小学校				
	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区
H 1	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫛生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
2	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫛生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
3	山口悦子(増川幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	細川文男(櫛生小)
	横田嘉代子(昼間幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	松村直也(和田小)
4	佐々木隆子(東山幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	松村直也(和田小)
	井上淳子(足代幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	細川文男(櫛生小)
5	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川糸子(足代小)	坂本武彦(白地小)	田中敬子(上名小)	谷恒二(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	志磨昭子(大和小)	大塚一志(栃之瀬小)
6	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川糸子(足代小)	坂本武彦(白地小)	志磨昭子(大和小)	大瀧和彦(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小)	大塚一志(栃之瀬小)
7	大久保珠美(池田幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	國金砂恵子(野呂内幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
8	國金砂恵子(川崎幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	大久保珠美(池田幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
9	岡尾千恵(下名幼)	原敏二(三庄小)	中川貴史(昼間小)	篠原晃代(馬路小)	小笠原誠(平野小)	徳善之浩(名頃小)
10	木村恵美子(西岡幼)	野町孝英(芝生小)	石井文子(辻小)	島田晴代(野呂内小)	篠原義正(河内小)	岩崎順子(善徳小)
11	三木香代(西庄幼)	森北直樹(加茂小)	中村瑞穂(足代小)	山下史記(佐野小)	河野通之(大野小)	向井ひろみ(菅生小)
12	渡辺千枝(三野幼)	平田公彦(太刀野山小)	小角昌美(西井川小)	三好美智代(西山小)	谷口政代(下名小)	品川知美(櫛生小)
13	岡本久美(西井川幼)	三橋洋子(西庄小)	今川仁史(東山小)	生藤元(箸蔵小)	三橋泰(落合小)	
14	大西恒子(井内幼)	喜多とよみ(王地小)	細谷加代子(井内小)	近藤直美(池田小)	瀧下光子(西宇小)	
15	山中あけみ(箸蔵幼)	樋口隆則(絵堂小)	加藤公夫(昼間小)	近藤明美(三縄小)	松浦理恵(善徳小)	
16	新居利枝(馬路幼)	松代容子(芝生小)	福田ミカ(辻小)	松下寛興(白地小)	井上清隆(栃之瀬小)	
17	古井智恵子(善徳幼)	武田淳子(三庄小)	佐藤仁美(足代小)	向井ひろみ(馬路小)	山中祐二(大野小)	
18	谷本紀子(大野幼)	平尾佐知子(加茂小)	北川ひとみ(王地小)	渡邊真弓(川崎小)	岡本悟(櫛生小)	
19	佐藤重美(東山幼)	平野貴志(東山小)	豊田昌弘(西井川小)	木内晃(佐野小)	猪子研司(和田小)	
20	鳥首こずえ(加茂幼)	邊見明美(絵堂小)	井原理恵(芝生小)	宮本真吾(西山小)	河野恵子(山城小)	
21	大西照子(西井川幼)	和田光司(西庄小)	小角昌美(井内小)	中妻稔子(箸蔵小)	森祐大(吾橋小)	
22	釈子育香(井内幼)	森幸子(昼間小)	松本珠実(王地小)	永山睦子(池田小)	清重正俊(栃之瀬小)	
23	城尾春菜(池田幼)	小角聡志(加茂小)	平尾昌彦(辻小)	安藤久子(三縄小)	平岡千佳(政友小)	
24	元木真砂代(池田幼)	近藤博美(三庄小)	園尾淑子(芝生小)	神谷美樹(白地小)	岩崎真人(櫛生小)	
25	石井やよい(昼間幼)	大久保智江(足代小)	中瀧由紀(井内小)	石丸美穂(馬路小)	福田浩司(東祖谷小)	
26	田岡あけみ(三庄幼)	大西三千代(昼間小)	木村栄治(王地小)	濱本恭代(川崎小)	喜多芳恵(下名小)	
27	真鍋友子(辻幼)	大西勇貴(加茂小)	藤川美香(西井川小)	新藤茂美(箸蔵小)	長岡鷹太(吾橋小)	
28	加藤由美(辻幼)	木村麻紀子(三庄小)	玉木恵子(芝生小)	上浦大輔(池田小)	瀧下光子(政友小)	
29	岡尾千恵(山城幼)	岡田直人(足代小)	岡慎太郎(辻小)	松本美穂(三縄小)	竹内友梨(山城小)	
30	山本真由美(白地幼)	曾我部悦嗣(昼間小)	大西利江子(王地小)	中川法子(白地小)	岩崎順子(櫛生小)	
R 1	藤川孝子(足代幼)	鮎川美加(加茂小)	伊丹智子(西井川小)	前田泉季(馬路小)	喜多芳恵(山城小)	

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～)

中学校

年度	中 学 校				
	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区
H 1	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
2	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
3	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	島本富美子(東祖谷中)
4	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	玉木富美子(東祖谷中)
5	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
6	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
7	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
8	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
9	三好康彦(三加茂中)	国友博司(井川中)	伊丹尚子(池田一中)	大西恭司(大野中)	鳥本清(西祖谷中)
10	青山貴幸(三野中)	上田美恵(三好中)	坂本浩江(池田中)	田村裕(山城中)	大谷一幸(東祖谷中)
11	平尾治美(三加茂中)	藤本恒幸(井川中)	尾崎真紀(池田一中)	新見哲也(大野中)	大倉俊之(西祖谷中)
12	宮成万寿美(三野中)	川人勝久(三好中)	内田公生(池田中)	白井正道(山城中)	宮成誠樹(東祖谷中)
13	玉木富美子(三加茂中)	川人祐子(井川中)	西岡ひとみ(池田一中)	板東祥子(西祖谷中)	
14	辺見俊二(三野中)	入江宏明(三好中)	川人恵美(池田中)	根津道子(東祖谷中)	
15	坂部公章(三加茂中)	山内幸子(井川中)	高田和枝(池田一中)	大谷一幸(山城中)	
16	村上義昭(三野中)	野田圭祐(三好中)	峰友真弓(池田一中)	安田恵(西祖谷中)	
17	玉木利典(三加茂中)	立花久(井川中)	久保喜昭(池田中)	岡本博一(東祖谷中)	
18	木藤和恵(三好中)	宮浦理恵(三野中)	沖原真紀(西祖谷中)	丸岡美枝(山城中)	
19	藤本智恵(三加茂中)	大石さえ子(井川中)	中川浩幸(池田一中)	ナサーニョ・デネヒー(東祖谷中)	
20	垂水恵子(三好中)	窪田和弘(三野中)			
21			尾嶋麻子(池田中)	山口雄三(山城中)	
22	渡辺仁(三加茂中)	近藤幸(井川中)			
23			常村淳(西祖谷中)	山口義明(東祖谷中)	
24	片山徹(三好中)	小出真理子(三野中)			
25			細川誠治(池田中)	峰友真弓(山城中)	
26	佐藤篤史(三加茂中)	伊藤憲志(井川中)			
27			芳川未弥(西祖谷中)	岡田祐佳(東祖谷中)	
28	石崎雄一(三好中)	石橋洋平(三野中)			
29			平尾昌彦(池田中)	西昭弘(山城中)	
30	天竹雄紀(三加茂中)	三好佐知(井川中)			
R 1			谷口真美(西祖谷中)	藤村美咲(東祖谷中)	